

村上春樹「クリーム」の教材的価値の追究

—語り形式に注目して「隠された物語」を読み解くことの面白さ—

教育実践高度化専攻 教科指導重点コース 言語・社会科学系（国語）

子安 琴乃

本研究では、村上春樹作品の新たな小説教材である「クリーム」の教材的価値を示すことをねらいとし、教材分析及び授業実践を実施した。

教材分析により、「クリーム」が「語り形式」の作品であることを確認した。このことは、これまで教科書に掲載されてきた村上春樹作品の小説教材と共通している。一方で、語りの目的や理由が明らかでないという独自の特徴もみられ、そこに「クリーム」ならではの面白さがあると仮説を立てた。そして、「語り形式」に注目して物語を読み解くことで、「ぼく」の「隠された物語」を読み解く面白さを備えた作品であると結論づけた。

授業実践では、本作品における「ぼく」の変化や考え方の特徴に注目することで、「隠された物語」を読み解くことを目指した。本作品に向き合う生徒の姿やワークシートの記述から、多様な解釈を楽しむ様子が見えかけた。また、教材分析では得られなかった「クリーム」の内容的価値を見出すことができた。